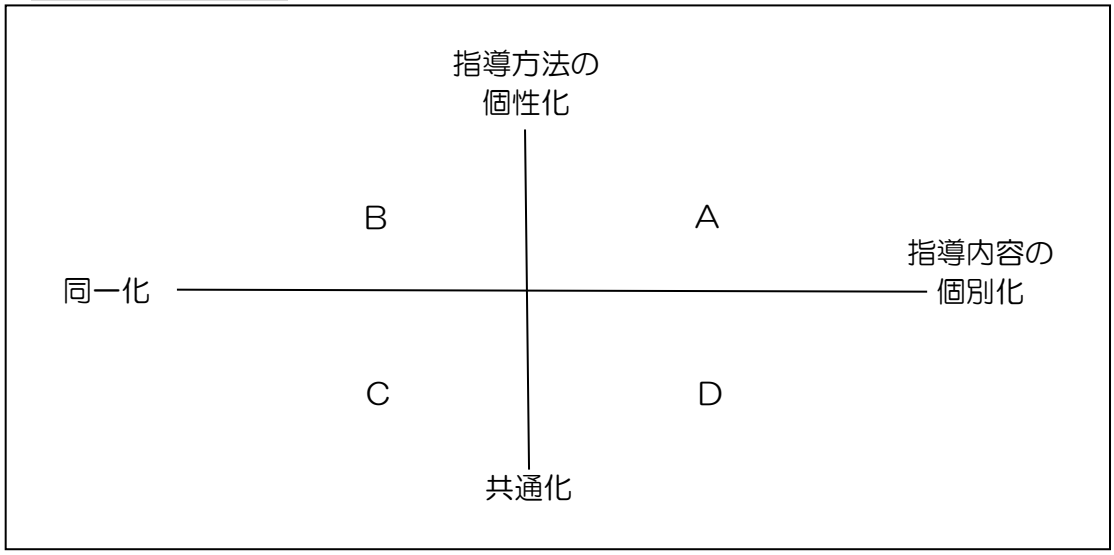
校長研修だより１０８

生徒指導プロット

2023・6・8　　重枝 一郎

本年度も J2,3 で「QU アンケート（学級満足度調査）」を行うことになった（福岡市より無償提供）。その研修会を先日 J2 学年会で行った。PowerPoint を P ドライブ【１校長より】に入れている。

生徒指導プロット



Aは，「個別指導重視体制」といえる。不登校対応等がこの領域になる。

Bの指導体制を確立することが原則だと考える。つまり「これは守らせる（内容の同一化），それぞれの先生のアプローチは認め合う（方法の個性化）」ということである。先生にはそれぞれ持ち味がある。「ダメなものはダメ」という内容を打ち合わせていたら，指導体制構築の妨げにはならない。

例えば，友だちのふでばこを窓の外に投げ捨てた生徒に・・・

〇〇先生：「拾ってこい！」と厳しく叱る。その後そっと後を追い，肩を並べながら教室に戻り，「何があった？」「どうしてカッカしている？」と語りかけた。
□□先生：「どうしたの？何かあったんだね」と言いながらスキンシップ。「でも，ふでばこは拾ってきなさい。そして，◎◎君にあやまろう。」と責任をとらせることは怠らない。

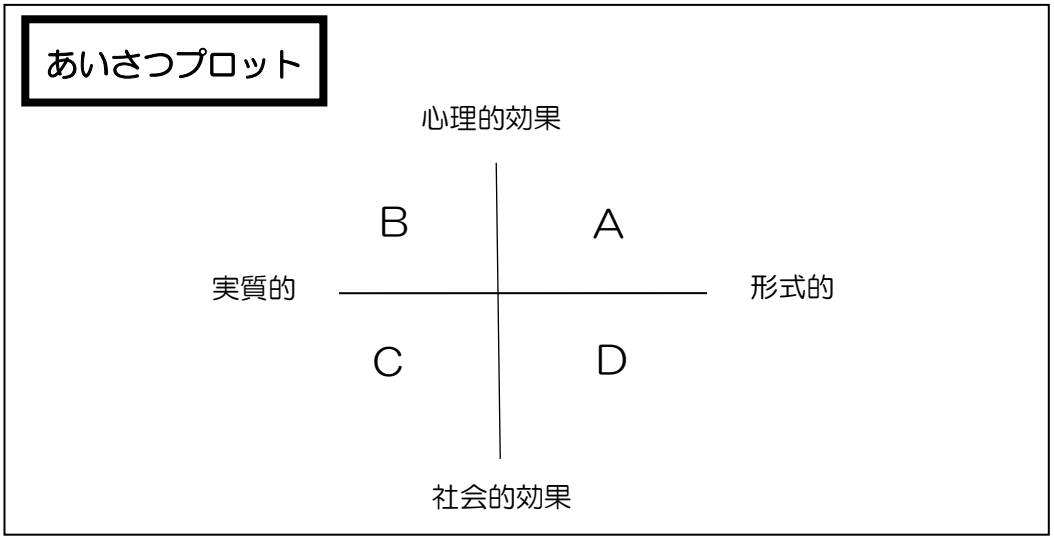
このように，その先生の『勢力資源』（「校長研修だより８１号」参照）があり，それぞれにあった指導がある。まずは□□先生のように，**支援（M・メンテナンス）そのあと指導（P・パフォーマンス）がいいと思う。なぜなら，Pが先だと，ずっとPばかりになることが多いからである。**（「PM理論」「校長研修だより８２号」参照）

Cは，「共通実践の困難性」が出てくる。「こういう風に指導してください」が，その先生にとってミスマッチな場合，そこから崩れていく。しかし，チームとして円滑に機能している場合は，助け合いが行われ，一定の効果はある。

Dは，当然のごとく「校内体制の混乱」に陥る。このチームはバラバラということである。これでは，生徒との信頼関係は築けない。

裏面にプロットシリーズで昨年 10 月の「Sence of Mission」で紹介した「あいさつプロット」を再度掲載する。本校生徒のあいさつの指導からプロットで考えてみるのもよい。６月は「再契約」の時期である。

４つのあいさつができる人



あいさつ
- 実質的 ⟺ 形式的（性質的側面）
- 心理的効果 ⟺ 社会的効果（効果的側面）

上の図は，これをクロスさせたプロット図である。ここからあいさつの意義を考えてみる。そして，この４領域の対極を考えさせると「あいさつのできない人ってどういう人？」につなげることができる。

Aは，「共同感情の確認」。「こんにちは」のように相手に対して敵意や反感がなく自分が相手と同じような気持ちをもつことになる。
Bは，「情緒的支援」。「がんばって」のような励ましのあいさつがこれにあたり，相手の意欲を喚起することになる。
Cは，「コミュニケーションの導入」。「お元気ですか？」と問い返すようなあいさつは，コミュニケーションを円滑にする。
Dは，「儀礼的行為」。形式的な意味が大きいのだが，社会的に重要である。「お世話になっています」等。

では，**「あいさつができない人」**について考える。AからDの対極を考えると，はっきりする。

- 共同感情に欠け，相手に反感か敵意をもっている。少なくとも相手との関係を拒否している人。
- 励ましたり，共感したりしようとしないことから相手に関心をもてない孤独な人。
- コミュニケーションがうまくとれない人。
- 常識に欠ける人。

総じて言えば，あいさつができない人は，社会生活が円滑に営めない人と社会から判断されてしまうということである。だから「あいさつ」は大切にしてほしい。そして，誰に対しても，どこにいても，堂々とあいさつすることが社会人である。